



羅針盤



大原 國章
Kuniaki Ohara

赤坂虎の門クリニック皮膚科, Visual Dermatology 編集委員長

つれづれなるままに

つれづれなるままに、日暮らし、パソコンにむかひて、心にうつりゆく病のことどもを、そこはかたなくネットサーフィンするほどに、あやしうこそものぐるほしけれ。

コロナウイルス禍で自宅蟄居の時間が増え、インターネットで博物館の名品鑑賞をするうちに、^{やまいのそうし}病草紙に行き当たりました。病草紙には原本の他に異本、模写本がいくつもあり、それについては本誌に服部瑛先生が書かれている*のご参照願うとして、今回のトピックはp.699に示した毛じらみです。博物館のColBaseの恩恵で図版を借用して提示することができます。これを見ると、今も昔も治療法は同じな剃毛ということが分かり、智慧の進歩のなさというべきか真理は不変というべきか、詞書も現代の医学書に通じる内容で、医学生の講義にそのまま使えば学生の眠気も覚め、記憶に残ること間

違いなし。陰毛に虫ある女あり。男これに近づきぬれば必ずうつる。かゆさ耐へがたし。剃刀にて毛を除きて助かるとかや。

手順：東京国立博物館のホームページを開き、コレクション、e 国宝、絵画と進むと、国宝病草紙にたどり着きます。

蛇足：私は絵巻物、絵草紙の類が好きなのですが、原本(本物)を買い込むほどのお金は持ち合わせていません。しかし秘蔵のコレクションがありますのでお目にかけます(図)。

蛇足2：今回の特集の写真の9割以上は、大原コレクションから厳選したものです。その意味では、“大原アトラス補遺”といってもよいかもしれませんが、陰部の特集としては2005年4月号に続くものになります。

☒ 吉行淳之介が現代語訳したお伽草子の直筆サイン本。国宝ならぬ“僕宝”。“なんでも鑑定団”での評価はどれくらいでしょうか。この他に、野坂昭如訳の酒吞童子、田辺聖子訳のたなばた物語とともに昭和57年に出版されましたが、売れ行きがよくなかったのか、シリーズは続くことなく終焉してしまいました。

※編註：「異本病草紙」については、過去に服部瑛先生の随想が連載されております(全6回)。

- 第1回：2002年4月号 p.98-104
- 第2回：2002年10月号 p.826
- 第3回：2004年8月号 p.880-881
- 第4回：2004年12月号 p.1326-1328
- 第5回：2006年2月号 p.188-190
- 第6回：2006年10月号 p.1052-1055

